

伊丹ルーテル教会四旬節第3主日礼拝

2021年3月7日

前奏：

招きのことば：詩編 19 編 8-15 節

主の律法は完全で、魂を生き返らせ | 主の定めは真実で、無知な人に知恵を与える。
主の命令はまっすぐで、心に喜びを与え | 主の戒めは清らかで、目に光を与える。
主への畏れは清く、いつまでも続き | 主の裁きはまことで、ことごとく正しい。
金にまさり、多くの純金にまさって望ましく | 蜜よりも、蜂の巣の滴りよりも甘い。
あなたの僕はそれらのことを熟慮し | それらを守って大きな報いを受けます。
知らずに犯した過ち、隠れた罪から | どうかわたしを清めてください。
あなたの僕を驕りから引き離し | 支配されないようにしてください。
そうすれば、重い背きの罪から清められ | わたしは完全になるでしょう。
どうか、わたしの口の言葉が御旨にかない | 心の思いが御前に置かれますように。
主よ、わたしの岩、わたしの贖い主よ。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。
思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に
罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちが救うため あなたが
お与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。
(短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・
キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ
務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお
名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

み言葉の部

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝もともに礼拝にあずかり、あなたのみ言葉をいただいて一週間を始めます。ここであなたの赦しをいただきます。新たにいのちをいただきます。ここから感謝をもって新しい一歩を踏み出します。あなたはみ言葉を聞く私たちをここから送り出してくださいますが、あなたはまた私たちの日々の生活の現場に来てくださって私たちを導き支えてくださいます。日常生活の中でこそあなたは私たちを導き、あらゆる災いから守り、隣人の力になるように鍛え用いてくださいます。新型コロナウイルス・ウィルスの感染が拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：コリントの信徒への手紙Ⅰ 1：18-25

十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。それは、こう書いてあるからです。「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さを意味のないものにする。」知恵のある人はどこにいる。学者はどこにいる。この世の論客はどこにいる。神は世の知恵を愚かなものにされたではないか。世は自分の知恵で神を知ることができませんでした。それは神の知恵にかなっていません。そこで神は、宣教という愚かな手段によって信じる者を救おうと、お考えになったのです。ユダヤ人はしるしを求め、ギリシア人は知恵を探しますが、わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えています。すなわち、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものですが、ユダヤ人であろうがギリシア人であろうが、召された者には、神の力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えているのです。神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。

福音書朗読：ヨハネによる福音書 2章 13-22節

ユダヤ人の過越祭が近づいたので、イエスはエルサレムへ上って行かれた。そして、神殿の境内で牛や羊や鳩を売っている者たちと、座って両替をしている者たちを御覧になった。イエスは縄で鞭を作り、羊や牛をすべて境内から追い出し、両替人の金をまき散らし、その台を倒し、鳩を売る者たちに言われた。「このような物はここから運び出せ。わたしの父の家を商売の家としてはならない。」弟子たちは、「あなたの家を思う熱意がわたしを食い尽くす」と書いてあるのを思い出した。ユダヤ人たちはイエスに、「あなたは、こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せるつもりか」と言った。イエスは答えて言われた。「この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる。」それでユダヤ人たちは、「この神殿は建てるのに四十六年も

かかったのに、あなたは三日で建て直すのか」と言った。イエスの言われる神殿とは、御自分の体のことだったのである。イエスが死者の中から復活されたとき、弟子たちは、イエスがこう言われたのを思い出し、聖書とイエスの語られた言葉とを信じた。

讚美歌 502 番

- 1 いともかしこしイエスの恵み、罪に死にたる 身をも活かす。
主よりたまわる 天(あめ)の糧に 飢えし心も 飽き足らいぬ。
※世にある限り、きみの栄えと いつくしみとを 語り伝えん。
- 2 救い恵み 告ぐるわれは 楽しみあふれ 歌とぞなる。
滅びをいでし この喜び あまねく人に 得させまほし。 ※
- 3 くすしき恵み あまねく満ち あるに甲斐なき われをも召し、
天(あま)つ世嗣と なしたまえば たれか洩るべき 主の救いに。 ※ **アーメン**

説教：「聖書とイエスの語られた言葉」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

今朝与えられている聖書の箇所は、イエス様がエルサレムの神殿でとても激しいしるしをお見せになったところです。イエス様はやさしいかただと思っていたのに、とても乱暴な方にも見えます。エルサレムの神殿の境内で、激しく怒り、縄で鞭を作って羊や牛を境内から追い出し、両替商人のお金をまき散らしてその台を倒し、鳩を売る人たちに運び出すように言われました。

弟子たちは、詩編 69 編 10 節のみ言葉を思い起こしています。イエス様が神様の家である神殿にたいしてとても純粋で熱い思いをもっておられるから神様を自分の父と呼んで御子であることを示したり、このような行動に出られたのだらうけれど、それによってユダヤ人たちから大きな苦しみを受けることになるのではないかと、思いました。

イエス様はどうしてこんなことをなさったのでしょうか。私たちは優しいイエス様のイメージがあっけなかなかなか簡単に理解できないのですが、当時の人々にとってはイエス様を信じるきっかけになっています。2章23節を見ると当時の人々はこのイエス様のしるしを見て、多くの人イエス様の名前を信じた、と書かれています。また3章2節ではエルサレムにいるイエス様を夜訪ねてきたパリサイ派の議員ニコデモは、このしるしは神のもとからこられたことの証明です、と言っています。

過ぎ越しの祭りはイスラエルで最も大きなお祭りのひとつでした。イエス様はヨルダン川でヨハネから洗礼を受け、ガリラヤ地方で弟子を召しだし、そして家族と一緒に暮らしながら神の御子、救い主としてのしるしをしていました。過ぎ越しの祭りの季節に、イエス様の一行は都

エルサレムに来たのです。全国から人々が集まって、かつてイスラエルの人々が奴隷であったエジプトから救い出された神様のみわざを祝いました。神様はかたくなにイスラエルの人々を解放しようとしないうエジプトの人々に最後のみわざを見せました。それは子どもたちのいのちをとるということでした。イスラエルの人々には家ごとに羊を殺して血を玄関の鴨居と柱に塗り付けるようにと命じられました。神の使いは羊の血の付いた家の玄関を見るとそこには立ち寄らずに過ぎ越していきました。エジプト人はまことの神様の裁きを思い知って、イスラエルの人々を解放したのです。神様の裁きはすべての人にあるけれども、神様を信じて羊の命を身代わりにして血を玄関に塗っておくことで神の怒りが過ぎ越したことの意味は大きいものでした。エジプトから脱出できたとき、モーセは神様から命じられて、民が神様の赦しと新しい命を毎日いただくための幕屋を荒野で作り、そこで民のために毎朝、毎夕、羊をささげました。ダビデとソロモンはエルサレムに神殿をつくって幕屋でしていたことを受け継ぎました。

このようにしてイスラエルの民はそれ以来やがて、神の小羊として一度限りですべての人の罪の裁きを代わりに受けて罪の赦しと新しい命を与えて下さるイエス様の到来を待ち望む民として歩んできたのです。

イエス様が来られました。そして過ぎ越しの祭りのとき、エルサレムの神殿に来られました。すると、神様の赦しといのちを受け取る礼拝の場である神殿の境内が、羊や牛、鳩などを売る人でごったがえし、また、支配者ローマのお金ではなくて神殿で用いる通貨に両替をする商人たちであふれていました。もちろん彼らは過ぎ越しの祭りに遠くから来た人々へのサービスとして商売をしていました。傷のない羊をはるばる連れてこなくてもよいように、捧げものにする動物をそこで買うことができるようにしていました。

本来、神殿のひろい境内はイスラエルの人々が礼拝の心を整えるところ、聖所にはいれない人々がそこで神さまのみ救いを覚えるところでした。ヨハネの福音書を読み進んでいくと、イエス様はここで人々に静かに教えられ、わたしは世の光です、と言われました。7章では次のお祭りだった仮庵の祭りのときには最後の盛大なクライマックスの日にそこで立ち上がって「誰でも乾いている人はわたしのところに来て飲みなさい、わたしを信じる人は聖書に書いてある通り、その人のうちから生きた水が川となって流れ出るようになる」と言われました。8章では姦淫の現場で捕らえられてきた女性の罪を赦しました。神殿の境内でそのようなイエス様のみわざがありました。そこは神様と出会うところ、石打ちの刑に値するような致命的な罪が赦され、また新しい命が泉のように流れ出すところです。

今は教会はそのようなところです。教会ではイエス様の罪の赦しが宣言されます。私たちのためにイエス様がいのちを与えて下さって、過ぎ越しの小羊の血を私たちの心の玄関に塗ってください。聖餐式がありますが、イエス様の体と血にあずかることで、私たちはイエス様が

十字架で私たちの罪をかわりに背負い神の裁きをかわりに受けて下さったこと、私たちは確かにイエス様の十字架の死によって罪赦されていることを改めて確信します。

イエス様は私たちに赦しと命を与えるために救い主として来てくださいました。イエス様は神殿を「わたしの父の家」と呼ばれました。父なる神様が、ながい歴史を経てついにイスラエルの民に、そして世界の人々のために約束の救い主を与えてくださいました。イエス様は救い主として来てくださいました。世の罪を取り除く神の小羊として、来てくださいました。ですから私たちは教会でイエス様の言葉を聞きます。また、イエス様の体と血をいただきます。

イエス様の聖なる怒りは、私たちをそれ以外のことから守るためでした。礼拝に関係することでも、礼拝よりも準備に力を注ぐことのないように、イエス様のみ救いは無代価です。イエス様がすべての代価をはらってくださったので、私たちは神様から罪の赦しをただでいただきます。イエス様のみ救い以外のものをイエス様は私たちの教会から聖なる怒りをもって締め出してくださいます。「わたしの父の家を商売の家としてはならない」と言って、私たちの心からイエス様の赦しといのちをいただくこと以外のことを追い出してくださいます。

イエス様の聖なる怒りを見て、そんなことをするからにはどんなしるしを見せてくれるのか、とイエス様につめよった方々がいました。彼らにイエス様は、神殿を壊してみよ、わたしは三日で立て直す、と言われました。大きな立派な神殿が境内の中央に立っていました。人々はおどろいて、この神殿の建物は46年もかかって再建されてきたのに三日で立て直すというのか、と驚きあきれたようです。イエス様は神殿と言う言葉でご自身の体のことを言っておられました。立てあげる、ということばは、イエス様が死からよみがえって立ち上がってくださることばと同じです。イエス様は私たちの罪の裁きをかわりに受けて下さって、死んでくださいましたが、その三日目に復活して、立ち上がってくださいました。お弟子たちは復活したイエス様に出会ったときにこのエルサレムでおこった出来事を思い出して、そうだったのか、とイエス様の言葉を信じました。

イエス様が来てくださるまでは、エジプトからイスラエルの民を導き出してくださった神様は、まずは幕屋で、そして神殿で、人々の罪を赦して新しい命を与えるために、羊をささげ血が流されることで民を導いてきました。イエス様は神殿です。ご自分の死によって、これまでの羊をささげる礼拝をおわらせて、すべての人の救い主として十字架の苦しみをお受けくださいました。もう神殿で礼拝することはありません。むしろ、礼拝では三日目によみがえってくださったイエス様の血と体にあずかり、イエス様の赦しの宣言を聞きます。

今日もそのようにしてこの礼拝で、私たちの罪を赦して神の子として下さり、日々生きていく命と使命を与えてこの一週間も強め支えて下さるイエス様の恵みにあずかるのです。

イエス様は救い主としてイスラエルの民にご自分を現しました。また、世界の救い主として十字架で死んで罪の償いをしてくださいました。私たちは心の玄関の鴨居と柱にイエス様の血を塗っていただいて、神様の怒りではなく、神様の赦しをいただきました。

神様から新しい命をいただいたのですから、この一週間、自分の弱さや罪に悩むのではなく、赦されたものとして、喜びをもってしっかりと歩んでまいりましょう。今週のあなたの歩みをイエス様はその復活の命で立て上げてくださり、神の器として人々の役に立つ生きがいを与えてくださいます。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン。

聖餐の部

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 1 節 2 節

1. 主の食卓を囲み、いのちのパンをいただき、救いの杯を飲み、主にあって我らはひとつ。

〈繰り返し〉 マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。X2

2. 主の十字架を思い、主の復活をたたえ、主のみ国を待ち望み、主にあって我らは生きる。

〈繰り返し〉

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

設定辞

「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。アーメン。

また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。アーメン

配餐 讃美歌 205 番、260 番、262 番

赦しの宣言

主イエス・キリストのまことのからだ、まことの血は、あなたをきよめ、あなたを強め、永遠のいのちにいらさせていただきます。あなたの罪は赦されました。安心していきなさい。

アーメン

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 3 節

3. 主の呼びかけに応え、主の御言葉に従い、愛の息吹に満たされ、主にあつて我らは歩む。
 <繰り返し> マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。 X2

讃美歌 339 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 君なるイエスよ、けがれし我を 洗いきよめて 恵みをたまえ
 わが日 わが時 わがもの 皆は 今より とわに 君のものなり
- 2 わが手は君の みわざをならい われの歩みは み跡(あと)をふみて
 いそしみ進み 主の御力に 常にたよりにて 強からしめよ
- 3 われの舌をば 救いの主(ぬし)の 恵みを歌う 器となして
 わがくちびるに よき音ずれを 溢るるばかり 満たしめたまえ
- 4 黄金(こがね)しろがね 知恵も力も 献げまつれば みな取り用い
 我のこころを 宝座(みくら)となして み旨(むね)のままに 治めたまえや **アーメン**

頌栄：讃美歌 543 番

主イエスの恵みよ 父の愛よ 御霊(みたま)のちからよ ああみ栄えよ。 **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

後奏